



2023 年度日本語教育学会春季大会

2023（令和5）年5月27・28日／オンライン開催

開会式は、事前のオンデマンド配信での開会挨拶のみとなります。

目 次

開催概要／目次	2
大会日程	3
開催のご挨拶	4
一般公開プログラム	6
発表一覧：パネルセッション	7
発表一覧：口頭発表	8
発表一覧：ポスター発表	12
同時開催イベント	16

◆今大会の実施方法について◆

2023 年度日本語教育学会春季大会は、全面的にオンライン開催となります。

- ・学会発表については、以下の 3 つの方式の組み合わせにて行います。
 - ①事前のオンデマンドによるビデオ配信・資料閲覧：2023 年 5 月 19 日（金）～ 6 月 11 日（日）
（パネルセッション：ビデオ 40 分、口頭発表：ビデオ 20 分、ポスター発表：ポスター掲示）
 - ②事前の指定フォームによる質問受付：2023 年 5 月 19 日（金）～ 5 月 26 日（金）正午
 - ③大会当日の Zoom による同時双方向型の質疑応答：2023 年 5 月 27 日（土）・28 日（日）
（パネルセッション：40 分、口頭発表：20 分、ポスター発表：40 分）
※当日は質疑応答のみで、ビデオ再生の時間は設けておりません。
- ・その他のプログラムの実施方法については、本プログラムおよび学会ウェブサイト「大会・イベント」のページ（https://www.nkg.or.jp/event/taikai/20221006_2195667.html）にて、今後公開される告知等をご確認ください。
- ・オンライン開催における有料プログラムへのご参加は、事前参加登録のみとなります（当日受付は行いません）。
- ・無料プログラムへのご参加は、事前申込は不要です。参加方法については、学会ウェブサイトをご参照ください。（4 月中旬に詳細を公開予定）。

- ◆主催：公益社団法人日本語教育学会
- ◆大会参加費（有料プログラム）：
 - 【事前登録 ※お支払い時に手数料がかかります】
 - 会員 3,500 円
 - 会員（有効期限付き学生証を提出済みの方）2,000 円
 - 会員でない方 5,000 円
 - 【当日受付】オンライン開催では行いません。
- ◆事前登録期間：2023 年 4 月 16 日（日）～ 5 月 15 日（月）
- ◆問合せ先：
 - E-mail: taikai-office@nkg.or.jp（下記を除く大会に関する問合せ先）
 - nkg.taikai@gmail.com（オンライン参加に関する技術面の問合せ先）
 - TEL: 03-3262-4291

◆大会日程◆

5月27日(土)

*印のイベントの概要は、16～20ページをご覧ください。

900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	
有料プログラム			12:00-13:00 *わかばさん いらっしやい	12:00-13:00 1会場	13:50-15:20 1会場×2発表 パネルセッション (各40分)		15:30-17:20 1会場×3セッション 2会場×2セッション		
無料プログラム	10:00-12:00 一般公開プログラム (無料)		*Net-J (無料)						
5月28日(日)	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700
有料プログラム	9:30-12:20 3会場×6発表 口頭発表 午前の部 (各20分)	12:30-13:30 *ぶらさだわかば	12:30-13:20 各種朗読会 *国際連携委員会 *国際協力機構	13:40-15:00 3会場×3発表 口頭発表 午後の部 (各20分)	15:20-16:10 *交流の部屋				
無料プログラム	9:20-12:30 3会場×4発表 ポスター発表 午前の部 (各40分)	12:30-13:20 *交流の部屋		13:40-16:00 2会場×3発表 1会場×2発表 ポスター発表 午後の部 (各40分)					
			*大会2日目は無料プログラムはありません						

開催のご挨拶

こんにちは。日本語教育学会の春季大会にご参加いただきありがとうございます。2023年は冬の寒さから一気に春を迎え、マスク生活からの自律とともに新たな暮らしに踏み出したといった感がありました。国内の日本語教育には日本語教師の資格化、教育機関認定の制度化などの目まぐるしい動きがあり、世界ではロシアのウクライナ侵攻にトルコ・シリアの災禍と、緊張状態と不均衡は続いています。こうした状況に、日本語教育学会は「ことばがもつ接続と創造の力」をさらに多くの人々と共有し、民主的で豊かな社会のために実践と研究を重ねたいという思いを抱いています。

本大会の一般プログラムは、私たちのこの姿を、行動遺伝学、手話言語学、食育・食文化の専門家に「境界の外側から」見ていただき、批判的かつ発展的に議論する企画となっています。実践・研究者が越境し異領域と対話し協働することには誰もが賛同します。問われるのは越境・対話・協働を「何のために」「どう行動するのか」、そして、結果として「何がどう変容し」それを「どう評価するのか」でしょう。本学会の使命、「人をつなぎ、社会をつくる」ことが実現できているかという問題です。

本大会ではテーマを「日本語教育学の「これまで」を振り返り、「これから」を指し示す」とし発表を募りました。時機を捉えた多様性に富む研究・実践の発表が行われます。オンラインの空間を利用し、単なる展示会に終わらせずに、領域を越境し対話を重ねてください。皆さんが創る新たな結び目と価値が、社会の変容と成長を生み出すことを心から願い・期待しております。

公益社団法人日本語教育学会会長 齋藤ひろみ

.....大会テーマ設定に関して.....

公益社団法人日本語教育学会では、次の3つの社会的研究課題を設定し、2017年度より各委員会が連携し、取り組んでまいりました。

- 課題1： 日本語教育学の「学問的専門分野」としての体系的枠組みの構築
- 課題2： 日本語人材・複言語人材育成のための日本語教師養成・研修の理念と枠組みの再構築
- 課題3： 多様なキャリア形成のための日本語教育内容の体系的再編成

公益社団法人日本語教育学理念体系より (https://www.nkg.or.jp/.assets/rinen_2015-2019.pdf)

開催のご挨拶

課題1は、次の通りです。

日本語教育関係者が日々研究・実践している多様な課題や領域の全体を「学的領域」として改めて捉え直し、その包括的領域内の個々の課題や領域の相関関係を体系的に整序して、「新たな学問的専門分野 (discipline) としての日本語教育学」の「学としての概念的輪郭」を描出・記述する。

「日本語教育学」と言えば、誰もがおよそその研究・実践の領域的輪郭を描くことができ、多様な諸活動を支える中核的な基礎概念・方法論的立場・評価基準などを緩やかに共有することができ、「人をつなぎ、社会をつくる」ための通用性のある「固有の学的専門性」を主張できることを目指す。

課題2は、次の通りです。

日本語教育の研究者・教育者・実践者の育成方法、教育内容、教育体制の多様化と深化を見据えた上で、日本国内外の人材育成の在り方を抜本的に再検討する。

高等教育段階における「学術的・専門的な日本語運用能力」、地域社会における「日常生活的な日本語運用能力」、初等中等教育 段階における「児童・生徒の自我の成長を 支え教科学習に参加できる日本語運用能力など、多様な「日本語運用能力」の育成・強化に関する現状・問題点・課題・必要性（ニーズ）を摘出・確認し、多様な日本語教育を担う柔軟で即応力のある日本語教師に求められる知的・技術的・人間的な素養について再検討する。

日本にとって地理的に近いアジア地域や 世界各地の日本人の移住・集住地域などを軸にしつつ広く諸外国・諸地域における日本語教育の在り方について、また、それぞれの地域における日本語人材や複言語人材の養成・研修の在り方について地政学的な観点から再検討し、相互交流・相互理解そして共生社会形成の素地作りについて、議論を喚起していく。

課題3は、次の通りです。

研究者や高度職業人として必要なコミュニケーション能力育成、「生活者としての外国人」の職場や地域社会におけるコミュニケーション能力育成、また年少者を含む生活者のキャリア形成やキャリアアップのための包括的教育・学習支援の在り方を研究・開発する。

同時に、そのような日本語人材・複言語人材の多様な組織や日本社会への受け入れによる社会的インパクトについて、また少子高齢化する日本社会の活性化への将来的影響等についても研究し、併せて多文化・多言語を背景とする人々をつなぎ、多元的な共生社会を創っていくための日本語教育施策の在り方と意義についても議論を喚起する。

課題1～3は繰り返し順に取りあげられ、1つの課題は「春季大会発表募集テーマ」「春季大会一般公開プログラム」「学会誌特集テーマ」が連動することにより、具体となります。今回の発表募集テーマは課題1に基づいています。

* 無料でご参加いただけます。

境界の外側から見える日本語教育学 —異なる専門分野から見えてくるもの—

5月27日(土) 10:00 ~ 12:00

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

日本語教育学会は、「人をつなぎ、社会をつくる」ことを使命とする学会です。研究領域が拡大する現在、日本語教育学の全体像を体系的にとらえ直し、また現代社会の趨勢を踏まえ、期待される研究の可能性を提示することが学会として重要になっています。

そこで、このプログラムでは行動遺伝学、手話言語学、食育・食文化といった日本語教育学を専門としない方々をお迎えし、日本語教育学との接点を持つ分野、あるいは境界の外側に位置するからこそ見えること、わかることをご紹介いただくことで、日本語教育学のとらえ方や関わりを浮き彫りにできるのではないかと考えました。

参加者の皆さんは、日本語教育の当事者では気づかないことや見落としがちなのが、日本語教育とは異なる専門分野からの新しい、クリティカルで複眼的な視点で語られ、ディスカッションへと発展するのを目撃することで大いに刺激を受け、同時にそれは日本語教育学の今後の方向性と自身との接点を考える貴重な機会になるでしょう。

また、今回は手話通訳を配置します。お知り合いの方にぜひご紹介ください。

登壇者（五十音順）：

安藤寿康氏〔行動遺伝学〕（慶應義塾大学文学部教授）
加藤三保子氏〔手話言語学〕（豊橋技術科学大学特任教授）
久保昌弘氏〔食育、食文化〕（辻料理学館「辻調グループ」／
日仏経済交流会理事）

司会：

倉八順子（東京富士語学院・調査研究推進委員会委員）

助成：一般社団法人尚友倶楽部

* 本プログラムは Zoom ウェビナーにて行います。開催近くになりましたら日本語教育学会ウェブサイト等で URL をご案内いたしますので、当日直接オンライン会場にお越しください。事前予約不要、当日先着 1,000 名様とさせていただきます。

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の「これまで」を振り返り、「これから」を指し示す」に関連した発表です。

パネルセッション—質疑応答—

[13:50 ~ 15:20 (各 40 分)]

第1会場

13:50 ~ 14:30

①★

「危機」における日本語教育のレジリエンス
—感染症・国際間摩擦・災害と対峙した100年と未来への示唆—

田中祐輔 (青山学院大学)
平高史也 (愛知大学)
小川誉子美 (横浜国立大学)
川端祐一郎 (京都大学)

14:40 ~ 15:20

②★

大学での日本語教師養成課程は、何を指すのか—プログラム開発, 実習, キャリア, 日本語学習支援の観点からみる今とこれから—

北出慶子 (立命館大学)
澤邊裕子 (東北大学)
嶋津百代 (関西大学)
杉本香 (大阪大谷大学)

口頭発表 質疑応答

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の「これまで」を振り返り、「これから」を指し示す」に関連した発表です。

午前の部 [9:30 ~ 12:20 (各 20 分)]

第 1 会場

司会：

【①～③】柴田あづさ（九州大学）

【④～⑥】清水まさ子（国際交流基金）

9:30 ~ 9:50	<p>① 学部留学生に対する就職活動支援におけるライフプラン再構築の重要性</p> <p>山内薫（明治学院大学）</p>
10:00 ~ 10:20	<p>② JSL 高校生のための「国語学習活動 Can-do」の開発—能力記述文の妥当性検証結果を踏まえて—</p> <p>飯島博子（東京外国語大学） 大津友美（同）、浜田かおり（同）</p>
10:30 ~ 10:50	<p>③ 高大連携サービスラーニングにおける越境学習と高校生・大学生の変容—外国につながる高校生の日本語学習・キャリア支援を通して—</p> <p>川田麻記（桜美林大学）</p>
11:00 ~ 11:20	<p>④ 日本語教師が進学する大学院を選択する際に「大学の雰囲気」を重視した背景—海外での日本語教育経験を経て日本の大学院に進学した K さんに対するインタビュー調査から—</p> <p>末松大貴（名古屋大学大学院生）</p>
11:30 ~ 11:50	<p>⑤ 日本国内の非母語話者日本語教師が抱く不安に関する考察 —非母語話者教師の不安の軽減を目指して—</p> <p>朴秀娟（神戸大学）</p>
12:00 ~ 12:20	<p>⑥ 多言語多文化性という観点からみたノンネイティブ日本語教師の資質・能力と教育実践—マルチリンガル環境で教える教師へのインタビューを通して—</p> <p>川上尚恵（神戸大学）</p>

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の「これまで」を振り返り、「これから」を指し示す」に関連した発表です。

第2会場

第3会場

司会：

【⑦～⑨】山元一晃（金城学院大学）

【⑩～⑫】船橋瑞貴（日本大学）

司会：

【⑬～⑮】松本剛次（大手前大学）

【⑯～⑰】大島弥生（立命館大学）

9:30 ~ 9:50	<p>⑦ 初級から中級日本語テキストにおける、フィラー「まー」の例文について</p> <p>百瀬みのり（三重大学）</p>
10:00 ~ 10:20	<p>⑧★ これからの教科書の形態の提案—オンライン初級教科書 Learn Japanese Online を具体例として—</p> <p>深田淳（パデュー大学）、ウェイ諸石万里子（同） 石井麻里奈（同）、宮田聖子（東京大学 GSGC）</p>
10:30 ~ 10:50	<p>⑨ オンライン日本語会話テストの開発—AI 採点を目指した設計と課題—</p> <p>平井美里（バベルメソッド株式会社） 深井朋子（株式会社レアジョブ）、伊集院郁子（東京外国語大学） 大津友美（同）、横山紀子（元昭和女子大学） 投野由紀夫（東京外国語大学）</p>
11:00 ~ 11:20	<p>⑩ 無情物主語受身文の誤用メカニズムの解明及び指導法の提案—学習者作文コーパスの誤用データに基づいて—</p> <p>任霞（関西学院大学大学院生）</p>
11:30 ~ 11:50	<p>⑪ 内容中心のコーパス分析の可能性—住みやすい国コーパスの分析例に基づいて—</p> <p>村田裕美子（ミュンヘン大学） 李在鎬（早稲田大学）</p>
12:00 ~ 12:20	<p>⑫ 質的データを分析の中心とした研究論文における引用・解釈文の文末表現の様相—学会誌『日本語教育』の掲載論文を対象として—</p> <p>朴在恩（韓国外国語大学校）</p>

⑬	<p>自然言語処理を用いた例文生成とその妥当性—日本語教師の支援を目的とした BERT・T5 を用いた文生成シミュレーション—</p> <p>岩下智彦（電気通信大学大学院生） 吉原将大（東北大学）</p>
⑭★	<p>中国の大学日本語専攻における分野横断の試み—「新文科建設」を背景とする日本語と漫画の融合型新専攻を例に—</p> <p>菅田陽平（北京第二外国語大学）</p>
⑮	<p>日中翻訳教育における多元化翻訳教育モデルのデザインと応用</p> <p>符晓旭（東亜大学大学院生）</p>
⑯★	<p>日本語作文学習への意欲と機械翻訳—スリランカ人日本語学習者対象の調査をもとに—</p> <p>ウダーニ・バーラスーリヤ（宇都宮大学大学院生）</p>
⑰	<p>学術的文章の「文章検討コミュニケーション」における留意点の考察—コメントを受ける側の経験の分析から—</p> <p>曹咬永（早稲田大学大学院生）</p>
⑰	<p>上級中国人日本語学習者と上級韓国人日本語学習者の作文の書き出しと結びについて—日本語母語話者の作文と比較して—</p> <p>加藤恵梨（愛知教育大学）</p>

口頭発表 質疑応答

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の「これまで」を振り返り、「これから」を指し示す」に関連した発表です。

午後の部 [13:40 ~ 15:00 (各 20分)]

第1会場

司会： 【⑱～㉑】今西利之（京都産業大学）	
13:40 ~ 14:00	⑱ ベトナム語を母語とする日本語学習者の日本語の語アクセントの傾向 Doan Le Hoa i Anh（南山大学大学院生）
14:10 ~ 14:30	⑳★ 日本語が拓く南米日系人介護労働者のキャリア形成—南米日系人自ら起こした取り組み事例から— 烏山房恵（一橋大学大学院生）
14:40 ~ 15:00	㉑★ 「介護の日本語」教師養成講座の実践—専門日本語教育における教師養成の役割と課題— 丸山真貴子（明海大学）

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の「これまで」を振り返り、「これから」を指し示す」に関連した発表です。

第2会場

司会：
【22～24】岩崎典子（南山大学）

- 13:40～14:00
②★
地域住民のつくりたい日本語教室はどのような場所か
深江新太郎（NPO 多文化共生プロジェクト）
- 14:10～14:30
②③
どの言語で経験を語るか
—母語と第二言語による語りにおける表象の違いに注目して—
李址遠（大阪教育大学）
- 14:40～15:00
②④★
日本語教育における実践研究の意義を問い直す
—語りの触発に着目した三項関係モデル—
香月裕介（神戸学院大学）

第3会場

司会：
【25～27】浅津嘉之（関西学院大学）

- ②⑤
依頼・断り・謝罪のタスクにおけるL2発話の特徴
—タスク負荷による効果—
桑田（神田外語大学大学院生）
- ②⑥
会話参加者によって顕在化された言語的な要素に起因する問題
—接触場面の修復とその問題源に着目して—
長田梨菜（早稲田大学大学院生）
- ②⑦
日本語学習者の「言い直し」を捉え直す
井畑萌（南山大学大学院生）

ポスター発表 質疑応答

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の「これまで」を振り返り、「これから」を指し示す」に関連した発表です。

第1会場

午前の部 [9:20 ~ 12:30 (各 40分)]

9:20 ~ 10:00

①
経営学科初年度留学生と日本人学生との合同
授業—事後アンケート調査を通して—

小野寺妙子 (帝京平成大学)

10:10 ~ 10:50

②
初級クラスにおける CLIL 型授業の実践報告
—日常生活に関連するテーマで—

山田真弓 (東京都立大学)

11:00 ~ 11:40

③
IT系資格取得を目指す留学生のための学習支
援の検討—模擬試験を用いた困難点に関するインタ
ビュー調査—

三谷彩華 (江戸川大学)

大崎健一 (専門学校デジタル&ランゲージ秀林)

11:50 ~ 12:30

④
E タンデムが日本語教育副専攻の学生の日本語
教授に及ぼす影響—外国語相互作用分析システムに
よる授業分析を通して—

末繁美和 (岡山大学)

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の「これまで」を振り返り、「これから」を指し示す」に関連した発表です。

第2会場

第3会場

9:20 ~ 10:00	<p>⑤★ 「学」としての日本語教育はいかに可能か —規範的教育学の視点から—</p> <p>中井澤卓哉 (一般社団法人ひとと)</p>	<p>⑨ 地域日本語教室での生活情報提供における自治 体職員の意識—ごみ講座と防災講座終了後のインタ ビューの分析—</p> <p>俵山雄司 (名古屋大学) 渡部真由美 (トルシーダ)</p>
10:10 ~ 10:50	<p>⑥★ コロナ禍によるオンライン授業を体験した日本語 教師の意識の探究—質問紙調査から見えてきたもの—</p> <p>秋田久美子 (目白大学大学院生)</p>	<p>⑩ ローカル・ガバナンスの視点から捉える地域日本 語教育の役割—多様な「声」を拾い、形にすること—</p> <p>山本晋也 (周南公立大学) 小口悠紀子 (広島大学)</p>
11:00 ~ 11:40	<p>⑦ 日本語教師養成講座の教育実習での実習生の意 識変容における講師の役割</p> <p>俵加奈子 (お茶の水大学大学院生)</p>	<p>⑪ 地域と大学の連携による日本語学習支援者養成 講座の成果と課題</p> <p>栗田奈美 (恵泉女学園大学) 秋元美晴 (恵泉女学園大学名誉教授)</p>
11:50 ~ 12:30	<p>⑧ 日本語教育現場に根づく言説に対する日本語教 師教育者の省察と意識化</p> <p>嶋津百代 (関西大学), 門脇薫 (摂南大学) 北出慶子 (立命館大学), 新矢麻紀子 (大阪産業大学) 杉本香 (大阪大谷大学), 中谷潤子 (大阪産業大学) 西村美保 (清泉女子大学)</p>	<p>⑫★ 学習者オートノミーの育成を目指した初級クラス におけるアドバイジングセッションの実践 —地域日本語教育での試み—</p> <p>尾形文 (神戸国際コミュニティセンター) 大河内瞳 (大阪樟蔭女子大学), 岡本絹子 (立命館大学)</p>

ポスター発表 質疑応答

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の「これまで」を振り返り、「これから」を指し示す」に関連した発表です。

第1会場

午後の部〔13:40～16:00（各40分）〕

13:40～14:20

⑬

日本語学習者による多義語コロケーションの理解—「でる」「きる」「つける」に焦点をあてて—

麻生迪子（四天王寺大学）、大神智春（九州大学）
森田淳子（西南学院大学）、林富美子（明治大学）
鈴木綾乃（横浜市立大学）

14:30～15:10

⑭

日本人大学生は友人との雑談で何者として語り合うか—雑談教育への応用を目指して—

高井美穂（大阪大学）

15:20～16:00

⑮★

日本語教育における言語・言語教育観—トランスランゲージングに関する議論をめぐって—

米本和弘（東京学芸大学）

★印は、今大会のテーマ「日本語教育学の「これまで」を振り返り、「これから」を指し示す」に関連した発表です。

第2会場

13:40 ~ 14:20

⑯
小学校教科書で用いられている単語と複合語の抽出—小学校教科書語彙リストの公開に向けて—

山本裕子 (愛知淑徳大学)
 川村よし子 (元東京国際大学)
 鷺見幸美 (名古屋大学)

14:30 ~ 15:10

⑰
CLD 生徒のアセスメントにおける話しことばと書きことばの関係—延べ語数, 異なり語数, 語彙多様性に着目して—

山元一晃 (金城学院大学)

15:20 ~ 16:00

⑱
言語的文化的に多様な 10 代の子どもたちに向けた教材開発—言語教育分野と教科・市民性教育分野に携わる者の協働過程を中心に—

南浦涼介 (広島大学)
 小口悠紀子 (広島大学)
 櫻井千穂 (大阪大学)

第3会場

⑲★
介護福祉士国家試験の読み誤りに係る一考察—EPA 候補者に対する調査から—

神村初美 (日越大学)
 丸山真貴子 (明海大学)

⑳★
EPA 介護福祉士の長期滞在に向けての日本語—国家試験合格後 10 年の「これまで」と「これから」—

岡田朋美 (にほん語でかいご共育会)

わかばさんいらっしやい

[5月27日(土) 12:00 ~ 13:00]

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生、日本語教育活動に関わり始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方など、日本語教育学会ビギナーの方たちのことです。わかばさんが初めて大会に参加するときは、「学会って、どんなところなんだろう?」「どんな人が参加しているのかな?」「どの発表を聞けばいいんだろう?」など、少し不安だったり、ちょっと勇気が必要だったり…。そんなわかばさんをお迎えし、サポートするのが本イベントです。「わかばさんいらっしやい」では、事前に配信する動画で、大会のしくみや聞く発表の選び方、大会の楽しみ方などをご説明します。大会当日は動画の内容について簡単に質疑応答を行なった後に「わかばさん交流会」を開催し、わかばさん同士でお話しできる場も用意しています。新しい出会いがあると大会はきっともっと楽しくなり、また大会終了後もネットワークはどんどん広がっていくでしょう。参加希望の方は、大会参加手続きを済ませてから、本イベント専用の申し込みフォームでお申し込みください。たくさんわかばさんのご参加をお待ちしています。

日本語教育研究・実践ネットワーク (Net-J) 学会・研究会紹介ブース * 無料でご参加いただけます。

[5月27日(土) 12:00 ~ 13:00]

主催：公益社団法人日本語教育学会 学会連携委員会 Net-J 部会

日本語教育研究・実践ネットワーク (Net-J) は、アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会、多文化共生社会における日本語教育研究会、日本語音声コミュニケーション学会、JSL 漢字学習研究会、ビジネス日本語研究会、看護と介護の日本語教育研究会、日本語教育学会(事務局)の7団体で組織されたネットワークです。本ブースでは、これらの学会・研究会が、各分野の最新情報や、各研究会の取り組みについてご紹介します。また、当該分野の研究・実践に興味のある方の、個別の相談をお受けすることも可能です。ぜひ、関連分野の研究・実践に取り組んでいる方、また関連分野の興味のある方のご来場をお待ちしています。Zoomで直接ご質問やご相談をお受けいたします。加盟団体の詳しい情報については各団体のサイトをご覧ください。

また、Net-Jでは、新たな加盟団体を随時募集しています。興味のある団体は、日本語教育学会事務局までご相談ください。

* 事前申込は不要です。参加方法は4月中旬に学会ウェブサイトで公開予定です。

賛助団体会員出展ブース

[活動紹介・書籍紹介・教材紹介等] *無料でご参加いただけます。

[5月27日(土) 15:30～17:20]

出展：公益社団法人日本語教育学会 賛助団体会員

本会には「賛助団体会員」「賛助個人会員」という会員種別があり、「賛助団体会員」として全国の出版社、書店、日本語学校、企業、NPO 団体等、51 団体が入会しています。(2023 年 3 月現在)

賛助団体会員の皆様からは、日本語教育全体の発展と本会の運営の促進のために多大なご協力をいただいています。

「賛助団体会員出展ブース」では、各団体の紹介や、最新情報の発信、書籍・教材の紹介等を行います。双方向型オンラインセッション、オンデマンドによるビデオ配信、資料配信も行っておりますので、ぜひご覧ください。

* 事前申込は不要です。参加方法は 4 月中旬に学会ウェブサイトで開催予定です。

* 出展団体の詳細につきましては、20 ページをご覧ください。

ぶらさ da わかば

[5月28日(日) 12:30～13:30]

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

この学会に集うだれもが最初は「わかば」マークをつけて日本語教育の実践や研究に関わり始めました。日本語教育の世界で自分の先を歩いている「センパイ」と交流する機会を持つことができれば、ちょっとしたヒントをもらったり、悩みや疑問について相談したりできるかもしれません。とは言え、自分から「センパイ」に話しかけることはなかなかむずかしいことではないでしょうか。そんな「わかば」な人のための企画が「ぶらさ da わかば」です。少人数(1～3人)で1人の「センパイ」を囲み、気楽に話すチャンスです。研究や実践の話をしたり、キャリアの相談をしたり、「センパイ」の経験談を聞いたり、普段なかなか出会う機会のない「センパイ」と自由に対話をしてみませんか。今大会も「ぶらさ da わかば」は、ZOOM のブレイクアウト機能を使用し、オンラインで実施します。参加希望の方は大会参加申し込み後、「ぶらさ da わかば」にお申し込みください。定員は 20 名程度、先着順です。詳しい申し込み方法や「センパイ」のプロフィールはチラシまたは学会ウェブサイトをご覧ください。

「日本語教育グローバル人材奨励プログラム」説明・相談会 〔5月28日（日）12:40～13:20〕

主催：公益社団法人日本語教育学会 国際連携委員会

「日本語教育グローバル人材奨励プログラム」は、国内の日本語教育分野の若手研究者・実践者が海外の日本語教育現場の協力者とともに行う研究、教育に関する活動の費用の一部または全額を助成するプログラムです。一般社団法人尚友倶楽部の支援のもと、日本語教育学会が実施しています。（<https://www.nkg.or.jp/gakkai/kokusai/> をご参照ください）

本年度は、対面、もしくはオンラインでの研究、教育に関する活動、実践を支援の対象とし実施します。本説明・相談会では、前年度の受給者から、本プログラムを活用し、研究、活動をしてみて良かった点などを語ってもらいます。また、国際連携委員会の委員が助成プログラムについて説明をし、質問等を受け付けます。本プログラムの具体像を掴んでいただくことができますので、より多くの日本語教育分野の若手研究者・実践者に活用していただきたいと考えています。ご関心がある方の参加をお待ちしています。

* 実施方法は、学会発表と同様です（2ページ参照）。

JICA 海外協力隊経験を国内の日本語教育に活かす ～民間・自治体・大学等との連携～

〔5月28日（日）12:40～13:20〕

主催：独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局

JICA 海外協力隊は、開発途上国からの要請に基づき、それに合った技術・知識・経験を持ち、開発途上国のために活かしたいと望む方を募集し、選考・訓練を経て派遣します。190以上の職種があり、職種「日本語教育」はそのひとつです。

2023年は、通常の長期派遣の募集である春募集と秋募集に加えて、短期派遣の募集も実施する予定です。2023年春募集（募集期間2023年5月19日（金）～2023年7月3日（月））を例に、日本語教育に関して、開発途上国のどのような機関から、どのような協力要請があるのかについてご紹介します。

また、帰国した JICA 海外協力隊が、開発途上国での経験を国内の日本語教育や多文化共生社会の実現に活かしていくことも期待されています。日本での経験を開発途上国で活かし、開発途上国での経験を日本に還元する仕組みの一つの事例として、JICA と民間・自治体・大学等との連携に関する取組についてご紹介します。

* 本プログラムは、当日の Zoom ミーティングのみ行います。

交流の部屋

[5 月 28 日 (日) 12:30 ~ 13:20 および 15:20 ~ 16:10]

主催：公益社団法人日本語教育学会 大会委員会

2023 年度春季大会では、「交流の部屋」というスペース・時間を設けることにいたしました。

二日目の昼休みと午後の口頭発表が終了したあとに 50 分ほど交流のスペース・時間を設けます。出入りは自由です。

Zoom の部屋を用意しますので、会員同士の交流の場としてご利用ください。この Zoom の部屋は、いくつかのブレイクアウトルームに分かれて利用することができます。

学会参加者の皆様，どなたでも利用することができます。発表者と参加者，あるいは参加者同士が，さらに意見交換をしたり情報交換をしたりして交流を深める場としてご利用ください。

今回は試行として実施いたします。問題がある場合など，ご意見をいただけますと幸いです。

* 本プログラムは，当日の Zoom ミーティングのみ行います。ブレイクアウトルームを使用予定です。

5月27日（土）（団体名及びキーワード）

第1部 [15:30～16:00]

第1会場

一般財団法人
海外産業人材育成協会
講師研修/
就労者向け日本語教育

第2会場

株式会社
ジャパンタイムズ出版
教材紹介/デジタル教材

第3会場

一般社団法人
Global 8
日本語コミュニケーションテスト/
高度技術人材育成について

第2部 [16:10～16:40]

第1会場

株式会社
ひつじ書房
教材紹介/会話

第2会場

公益社団法人
国際日本語普及協会
書籍紹介/
教え方講習会紹介

第3部 [16:50～17:20]

第1会場

株式会社
くろしお出版
書籍紹介/教材紹介

第2会場

株式会社
アスク出版
教材活用/
初級クラスの展開

◆動画・資料配信（団体名及びキーワード）:

株式会社 スリーエーネットワーク（近刊新刊/教材紹介）

株式会社 ラーンズ（教材紹介/就労前教育）

◆資料配信のみ（団体名及びキーワード）:

株式会社 アルク（新刊紹介/日本語能力試験）

株式会社 研究社（書籍紹介/教材紹介）

株式会社 国書刊行会（書籍紹介）

株式会社 ココ出版（書籍紹介/教材紹介）

株式会社 三修社（異文化理解/コミュニケーション）

公益財団法人 日本漢字能力検定協会（ビジネス日本語能力テスト/BJT）

* 事前申込は不要です。参加方法は4月中旬に学会ウェブサイトで開催予定です。